

4 ジオネット石の施工方法

「ジオネットストーン」カラーページP.78-79

〈施工方法〉

① 路盤施工

クラッシュラン(C-30またはRC-30)を、仕上がり高さを考慮し、厚さ100mmになるよう十分に締固めを行い、平坦な路盤を作ります。排水勾配は必ず路盤で確保してください。

P.18参照

② 敷きモルタル下地の施工

敷きモルタルは、セメント:骨材=1:2.5(容積比)程度とし、骨材には、細骨材に加えて25mm以下の砂利などを使用してください。練ったモルタルを、仕上がり高さ50mmを考慮し、ならし板およびコテを用いて平らにします。

③ ジオネット石の敷設

敷き始めの基準点および基準線を設定します。基準点は長い直線で設置されている縁石などの1点とし、その基準点を通り、直交する2本の基準線を水糸で設定します。

モルタル下地上に貼り付けモルタルまたはセメントペーストを施し、これらにくい込むように木片をハンマーなどでたたいて固定します。製品の移動に留意し、適切に伸縮目地を設けてください。



④ 端部処理

規格ユニットで納まらない場合は、ジオネットストーンをダイヤモンドカッターなどで切断加工して納めます。端部に縁石を使用しない場合は、側面をモルタル、またはコンクリートで端部固定処理を行ってください。

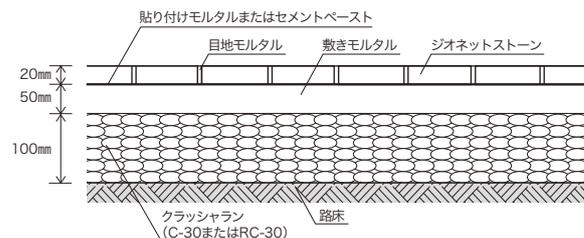
⑤ 目地詰め

目地材には既調合目地モルタルなどを用い、下地とのすき間ができないように十分に充てんしてください。目地幅は10mmを標準とし、目地詰めの高さは、ジオネット石の表面と同レベルとしてください。



⑥ 仕上げ

ジオネット石の表面に付着した目地モルタルを、水で濡らしたスポンジなどを用いて、きれいに拭き取ってください。また必要に応じて、目地ゴテによる目地押さえ作業を行ってください。



⚠️ ご注意

- 敷きモルタルの平坦性が十分に確保されていないと不陸、または破損原因となります。
- 路盤の締固めが不十分だと、支持力が不均一となり不陸、または破損原因となります。
- 敷きモルタルに使用する細骨材は5mm以下の砂とし、シルトや泥分が少なく、ゴミ、小石などを含まないものを使用してください。
- 小運搬時に片手で持つと、裏面のメッシュシートが切れやすくなりますのでご注意ください。
- ジオネットストーンは、車両が通行する場所でのご使用はお控えください。